

2022年度 第3四半期 決算説明会 質疑応答要約

Q) P&S 事業の市況とチャネルの在庫の状況について製品カテゴリー別に教えてほしい。

A) 製品本体について、インクは欧米、レーザーは北米・中国を中心に市況が悪化している。市況が厳しい状態は、第4四半期以降も継続すると見ているが、来年度下期以降には回復する見通し。チャネルの在庫については、レーザーは、部材不足による供給制約が落ち着き、適正水準に戻っている。インクも、在庫が充足し、やや物余りだが、過剰な水準ではない。

Q) 市況が悪化している背景は、コロナ需要の反動減なのか、それとも景気冷え込みの影響なのか。また、SOHO、SMBなどのセグメント別の状況はどうか。

A) コロナ需要の反動減というよりも、景気の冷え込みによるものと見ている。SOHO、SMBとでは特に大きな差はない。

Q) 消耗品は、第2四半期に販売が落ち込んだが、第3四半期には回復したのか。また、第4四半期以降の見通しは。

A) 第3四半期は、第2四半期からは回復しているが、社内計画比では下振れた。第4四半期以降もこの傾向は続く見えており、今回、業績予想を下方修正した。今後も、緩やかな減少トレンドが続くと見えており、来年度中に大きく回復することは想定していない。来年度は、将来の消耗品ビジネスを下支えするために、まずは本体をしっかり販売していく。

Q) 消耗品の販売が減少した要因の一つに、米国での物流混乱があったとのこと。物流混乱は以前から起こっていたが、再燃したのか。また、いつ頃回復する見込みか。

A) 第2四半期以降、物流のリードタイムが短縮し、急に製品が届くようになったため、倉庫スペースの確保などで混乱が生じ、出荷が滞った。現在は改善してきているものの、今年度いっぱい影響が出る見えている。

Q) 産業機器の受注が四半期ごとに下がっている要因と今後の見通しは。

A) 受注が落ちた最大の要因は、部材不足により生産が満足にできなかったこと。需要はある中、部材調達が思うように進まず、リードタイムが非常に長くなっている。そのため、お客さまに一時的に注文を控えていただかざるを得ない状況であった。加えて、中国におけるゼロコロナ政策、および政策転換後の経済混乱の影響もあり、受注が落ち込んだ。ただし、いずれも一時的な要因であり、今後は受注が回復し、成長路線に戻ると考えている。

Q) ニッセイ事業は、減速機が好調とのことだが、中国の市況悪化の影響は出なかったのか。今後の見通しは。

A) 中国の影響はあるが、グローバルでは、自動化・省人化ニーズが拡大しており、自動搬送ロボットや食品包装機械向けの減速機の需要も堅調に推移している。来年度以降も自動化ニーズは継続すると見ており、売上拡大を目指す。

Q) これまでは価格転嫁ができていたが、来年度以降の需要が弱くなると、値上げはせずに、回復を待つのか。値上げに対する考え方は。

A) 部材・物流コストの高騰に加え、エネルギーコストや人件費も上昇している。その中で、適正・健全な利益を確保するために、市場環境や競合とのバランスを見ながらではあるが、価格転嫁も検討していく必要があると考えている。

Q) 来年度の設備投資の見通しは。

A) 中期戦略では、将来の成長に向けた投資を積極的に行うことを掲げており、来年度も業績やキャッシュの状態などを総合的に勘案し、今年度以上の設備投資を行いたいと考えている。